特定非営利活動法人

ロングステイクラブ®

２０１３年　夏季号　ＶＯＬ.８５

耐氷船での南極探検ツアー

～第二の人生を豊かに～
Long Stay Club

2013年　夏季号　　VOL.85　目次

【巻頭言】

オーストラリアまで、１１６、９４０円　（ＨＩＳ）　理事長　塚本　茂　・・・・・　1

【クルージング】

客船サンプリンセス（７万７千トン）でのクルーズ　（その１）

会員　中井川久男　・・・・・　２～８

南極探検ツアー　（その１）　会員　馬越　治　・・・・・９～１１

【海外旅行滞在記】

日本を見直した台湾一周旅行　会員　ふゆきわぎ　・・・・・２～１７

混迷のトルコ　会員　大野康昭・・・・　１８～２２

【ＬＳＣイベント】

『東京散歩』六義園散策と荒牧信允氏によるとげ抜き地蔵ライブ鑑賞　・・・・・　２３～２４

ＬＳＣ座談会　５月・７月　・・・・・　２５～２６

ＬＳＣ　スクール　川口・所沢　・・・・・　２７

【編集後記】　・・・・・・・・・・・　２８

表紙写真

耐氷船での南極探検ツアー　馬越治氏　提供

オーストラリアまで、

１１６，９４０円　（ＨＩＳ）

ロングステイクラブ理事長　　塚本茂

私はオーストラリアのクーランガッタという所に１２年行っています。何が私を惹きつけるのでしょうか。それは静けさと海と人情だと思います。工場もなく、煙がない、従ってスモッグもない、人口約６０００人と聞くが、皆が健康そのものである。海は目の前にあり、毎年２月はサーフィンの国際大会があり私が知る範囲では日本人の入賞者は一人もいない。
一等３０００万円は、昨年はブラジル人が持っていった。海では膝まで位の遠浅であるためか家族ずれが多い。日がな一日海で砂遊びをしたりして遊んで帰る。海岸には貝類はいない。蟹はおおく岩場の間にかくれている。取る事は自由ですが、入漁料はどうなっているのでしょうか。

クイーンズランドでの長生き生活

クイーンズランドでは、長年働き終えた後の人生を、落ち着いた和やかな環境の中で新しい事を学びながら生活することができます。
クイーンズランド大学によれば、生涯学習は社会全体にまで、大きな利益を与えることがわかっています。校長は生涯学習では定年後多くの人が感じる孤独感やストレスを感じることなく、新しい社会を経験しさらには自信の知識を高めることが出来ると述べています。　何しろ、オーストラリアはすべてが高いのが難点です。

『客船サンプリンセス（7 万７千トン）でのクルーズ』（その１）

会員　　中井川久男

横浜港発着の韓国釜山・済州島・台湾高雄・基隆に寄港する５月１８日から２７日までの１０日間のクルーズに参加し、その時の航海日記をまとめてみました。　個人的な日記ですので不適切な文言もあるかと思いますがご容赦願います。

寄港地での観光は全てオプショナルツアーを申込み名勝・旧跡を訪ねましたが、年齢を重ねたせいか、何処も同じようで大きな感動はなく、船が好きな私は、船客が観光で下船して　人が少なくなり落ち着いた船内でゆっくりと過ごすのも　いいのかなあと考えるようになりました。

客船は、利便性のよい街中に近い埠頭に着岸するので、徒歩で短時間　街中を散策することもできるし　この方が現地の方と接する機会があり楽しいのではと思います。

初日（乗船日）

船会社のﾁｪｯｸｲﾝに時間がかかり長い列が出来て私達は１時間以上待たされました。年配者の多いクルーズで、1 時間以上も立ったまま待たされるなんて･･･　　最悪な人は、この長い列に並びもうすぐだあ～と　思ったと思いきや　ツアーを申し込んだ各旅行社の受付けがまだで　受付を済ませ再度　長い列の最後尾に････列の最後尾に係員を配置して案内を行うべきではないの！　と思った次第です。再度並んだ人が何人いたかは不明ですが、大変　気の毒な思いをされたことと思います。（お疲れ様でした）

乗客定員が 2000 名以上ですので、荷物検査場とﾁｪｯｸｲﾝｶｳﾝﾀｰの増設が望まれます。

乗船後、14 ﾃﾞｯｷのﾋﾞｭﾌｪﾚｽﾄﾗﾝ（ﾎﾗｲｿﾞﾝｺｰﾄ）にて遅めの昼食をとってから部屋で荷物整理をしていたところ避難訓練のｱﾅｳﾝｽがあり、荷物整理を中断して指定場所に集合。だが、16 時からの訓練なのに　まだぞくぞくと乗船しているではないか･･･

結局　この訓練でも長時間待たされることとなりました。（立ったままの人も大勢いて気の毒でした）　その上 17 時出航がｴﾝｼﾞﾝﾄﾗﾌﾞﾙで 2 時間以上遅れ　一時ｴﾚﾍﾞｰﾀも動かなかったとか･･･

重い荷物を持って上層階へ階段で移動された年配者の方々　ここでも大変　気の毒な思いをされたことでしょう･･･荷物整理を終えて「＄1000 宝さがし」のｲﾍﾞﾝﾄに参加　船内の主要箇所をまわりスタンプを集めると抽選会に参加できます。　この宝さがしをすることによって船内の主要施設が何処にあるのか把握できます。食事時間が 5 時半からでしたので、船内スタッフに指定場所が何処にあるのか聞きながら走ってのスタンプ集めとなってしまいました。　夕食テーブルは８人席で、指定のテーブルには私達夫婦を除き全員着席されていて私達が最後の着席となりました。

夕食後、ショーを観覧してから船内を散策して部屋へ戻り、ｼｬﾜｰを使用したら　排水が詰まっている様子　ﾌﾛﾝﾄに電話し　対応を依頼いたしました。　ｴﾝｼﾞﾆｱに連絡して対応するとのことでしたが　　待てども･･･　一向に来ない　　う～ん（だんだん感情が高ぶってきたが）　外国船はこんなもと　諦めて就寝

本日は乗船するためだけで疲れてしまった一日でした。

二日目

昨日の疲れを引きずってはいるものの船と海が大好きな私は、船上から大海原を見ているだけで心が癒され　満足！満足！　だが、ｼｬﾜｰ室の排水詰まりは納得していないので、添乗員さんを通して再度ｸﾚｰﾑをしておくこととしたが、　添乗員さんの部屋も同様の様子　他の人にも聞いてみると私たちの部屋は、まだ良い方だということが判明した次第です。　　夕方近くｴﾝｼﾞﾆｱが来て点検していたが「ﾉｰﾌﾟﾛﾌﾞﾚﾑ」の一言　　アチャー

午前中　ｶｰﾍﾟｯﾄﾎﾞｳﾙと料理のﾃﾞﾓﾝｽﾄﾚｰｼｮﾝのｲﾍﾞﾝﾄに参加　また、宝さがしの抽選会は残念ながらはずれてしまった。一人 14ﾃﾞｯｷのﾃﾗｽｸﾞﾘﾙで昼食のﾋﾞｰﾌﾊﾝﾊﾞｰｶﾞｰを食べていて　仲の良いご夫婦とご一緒する（後に私のﾀﾞﾝｽの先生となってくれた？）

午後は、ﾀﾞﾝｽﾚｯｽﾝ等のｲﾍﾞﾝﾄに参加

なお、本日はﾌｫｰﾏﾙﾅｲﾄで正装しなければならないので、早めに部屋へもどり新調した和服に着替え、夕食と船長主催のシャンパンレセプションに参加して　華麗なる夜宴を楽しみました。

横浜大桟橋に停泊中のサンプリンセス

フォーマルナイトの正装

旅行社へ一言

事前の案内では、湯沸しポットにスリッパは設置されていないとのことであったが部屋へ入ったら電気ポットにスリッパは船側にて用意されていた。　せっかくスリッパを持参したのに･･･　　事前の案内では正確な情報を周知してほしいものである。

3 日目

釜山入港

9 時半出発で海東龍宮寺･APEC ハウス等を回るツアーへ参加

下船の際、ゲートで船側が発行したクルーズカード（部屋のキー兼クレジットカード）をチェックされるが　「ブープー」。セキュリティーの係員に体を張って止められた。ぽか～んとしていると私の顔写真が外人の女性に変身してしまっている････？　　え～え～

（クルーズカードのバーコードを機械が読み込むと個人情報と顔写真が表示される）
　奥さんは、チラッと冷たい視線をこちらに向けそのまま下船してしまった。
今朝方このカードで部屋へ入ろうとしたが、ドアが開かず、フロントでカードを再発行してもらったが、そのカードの前の持ち主の顔写真がそのまま残っていたようだ！
ゲート担当者が私のカードを持って「ウェト」と言って訂正に走っていった。
次のツアー客の団体が下船していく･･･10 分程度待っただろうか　やっとハンサムな私の顔写真となってカードが戻ってきて下船。
　バスの添乗員さんが首を　ながあ～くして待っていてくれた。
奥さんは他人のふりして窓の外を眺めている。　「出発時間を遅らせてしまってごめんなさい」　でも、悪いのは　しっかりとカードを訂正発行しなかったフロント担当者ですからね！
14 時頃ツワーから帰船して 14 デッキ･ホライゾンコートにて遅めの昼食
15 時半からのアフターヌーンティーを楽しむために一人 6 デッキ後方のリージェンシーダイニングへ　来た順番にテーブル（この時は 6 人席）に案内され、お茶と軽食が提供される。
全員初対面ですので皆さん緊張している様子（私はのんびりと一人で海をみながらお茶を楽しみたかったのに）　向かい側の先に奥さんを発見　奥さんは他の人と楽しんでいる様子　やれやれ！　ここでは、船の好きな年配の方と話が尽きずにティータイムの 16 時半を過ぎてしまったので、ダイニングを出て　お話をしていました。
　この方は、ご自分で船のことを調べて勉強したとのことで豊富な知識をお持ちでした。私が、かつて船舶通信士であったことから、タイタニック号の SOS の話から始まりブリッジ・エンジンルーム等に関する楽しい会話ができました。
（この方とは、後日船内で再びお会いして船全般に関するお話をさせていただきました。）
本日の夕食は、最終乗船時間が 18 時半のため自由席でしたので、二人席を希望して奥さんと久々の二人での食事となりました。
（いつも意見が合いませんが　この時は二人席について互いに合意。　気取らずにいつものように食事ができました）
　食事の後はプリンセスシアターでショーの観覧　本日は、ピアニストのリンダさんによるピアノ演奏　この方とは、船内でお会いして短時間お話をいたしました。
　昨年レジェンドに乗船した際のショーに出ていてすばらしい演奏を聞かせていただきました。
５月初めに乗船したボイジャー（日本初寄港の１４万トンの大型客船）でも出演されていて、今回で三回目となります。
　ショーの内容が全く同じでしたので、早めに切り上げて　ホイールハウスバーでダンスを楽しみました。

４日目　済州島入港
　8 時 45 分出発の万丈窟とサングムブリ噴火口を回るツアーに参加

13 時頃帰船　8 デッキに直行して、いつも混雑しているヴェルディーズ（ピザ専門店）にてピザの昼食をいただきました。

5 デッキ中央にて休んでいると、5 月初めに私達と同じ日程でボイジャーに乗船していた A ご夫妻と知り合い、後日、クルーズ専門の旅行会社を紹介していただいた。

その紹介していただいた旅行会社の添乗員さんともすっかり顔見知りになってしまった。

こうしたことから次々に知り合いが増えていき、時々知らない人（年のせいでメモリー機能が衰えて忘れてしまった人　ごめんなさい）から挨拶され　戸惑う私であった。

夕食後は、ショーを観覧し、ビスタラウンジで行われた 50 年代のロックンロールダンス教室に参加、続いて　何でもいいから硬い体を動かして楽しく踊ってフィーバーしていたら　フラフープ大会をやるとのこと･･･　すかさず奥さんにそそのかされて（自分でも出たくて）真っ先に前に出て行き競技に参加　　で、男性の部で優勝してしまい　シャンパン 1 本を賞品としていただきました。　部屋へ戻り　踊り疲れて寝れると思いきや、興奮が冷めずに　目がパッチリ　朝早くから夜遅くまで　私って　こんなに体力があったんだ！

船に乗っていると　毎日が楽しくて　寝る時間を惜しんでいる自分を改めて発見した次第である。

釜山の海東龍宮寺

釜山港出航での見送り風景

5 日目（終日航海日）

人がいない早朝、船内で一番好きな場所 7 デッキ「ホイールハウスバー」（ブリッジ（操舵室）の意味）で古い客船の模型･船の絵･資料等を撮影していたら　同じようにこの場所に興味を持っている方がいらっしゃった。

話をしたら元航海士の方で 12 年ほど船に乗っていたとのこと　私も元通信士で乗船経歴は 8 年　で、ここでも船の話が出来て幸せな時間を持つことができた。

早朝から楽しい時間を過ごすことができて、初日のアクシデントを忘れ　楽しさ 200%にパワーアップ!!　さらに、今日は終日航海日でゆっくりと船内で過ごすことが出来る問題の奥様も楽しみを見つけてくれて一人船内新聞を見ながらイベント参加してくれる。

「よし！自由時間を確保できたぞ」　朝食は 6 デッキのダイニングで和食をオーダー

お粥が食べられ　量的にも少なめで　毎日　これでもかと　次々出されるコース料理やバイキングでつい多めに食べてしまっている胃に安らぎを与えてくれた。腹八分目　これこそ健康の秘訣と　今更ながらに感じて　軽くなった体で船内を散策することができる。

　午前中は毎回参加のカーペットボウルと初級英会話教室に参加

昼食はダイニングにてスープ・サラダ・チーズバーガですませる。

午後は、シアターで見たかった「おかえり、はやぶさ」の映画鑑賞　毎日の夜遊びが過ぎたのか　半分は寝てしまった。その後、初日の避難訓練の際に知り合ったＢ夫妻のビンゴゲームを応援観戦する。指定の色カードで4･5回できるが　いずれもビンゴにならず　それにしてもビンゴの返戻金がちょっと少なすぎるのでは･･･　まあ　ゲーム感覚で参加する分にはいいのかなああ！

夕食後　外が暗くなってくるにしたがってエンジンが最高潮にフル回転してくる･･･のは、なぜ？

社交ダンスの華麗なる踊りのショーを見たあとは、満席となっていたビスタラウンジでの落語を聞いて･･･　シューティングスターズでディスコナイトを楽しんだ！　（夕食時にテーブルの全員をお誘いしたが我が夫婦とＮ夫妻が参加）

少ない人数で短時間ではあったが、担当スタッフの誘いもあり十分に楽しむことができた。

6日目　台湾高雄入港

　初めて旅行社主催（他のツアーは船会社主催）のツアーに参加するが、昼食と土産物屋に行ったことは記憶しているが････

資料によると澄清湖・寿山公園へ行ったことになっていた。（神社と龍･虎の建造物が湖にあったことは記憶にある）

　以前高雄に来て　友人達（現地人を含む）と美味しい飲茶料理を食べたので　奥さんに昼食を期待させていたが････

　うむ～　期待はずれの感が強かった。

入港時　本船は極狭い場所を通過して着岸していたことを思い出した。　船内の窓から陸岸の建物が極近くに見えて

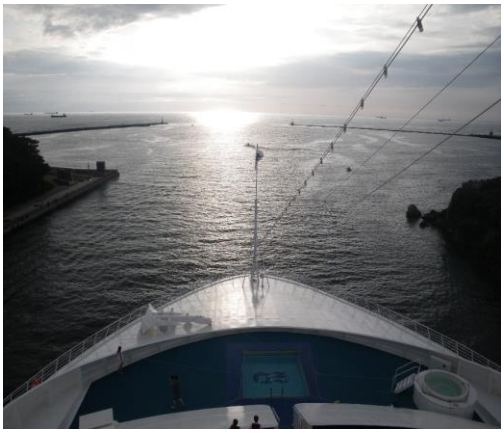
えっ！　こんなに近くを通って座礁しないの？　とビックリしたので、　出航時はこれを確認するため　船首で見学することとした。

　すると同じ思いの　元航海士さんも船首に!!!　相当深く掘削してあるんだろうねえ～と　二人で感心している中、無事に通過してパイロット（水先案内人）が下船していった。

で、時計を見ると　17時40分　ダイニング開店（17時30分）後15分を過ぎると　閉められてしまう　　あわててダイニングへ向かい　セーフ　私を除くみなさんは既に食事中　　一人だけ一番遅い着席であった。夕食後は、マジックショーにビスタラウンジでのダンスを楽しむ

　ダンスのステップは、最初は簡単であるが次々にステップが増え全くの初心者にとっ

ては、かつ、リズムに乗れない運動オンチの私には、たいそう難しいステッップである。スタッフにブツブツ言っていたら　マイクを向けられてしまった。
　そのかいあって、私の前でステップしてくれて何とか‥‥　その後もこのスタッフには、ダンス教室のたびに特訓？を受けられる利益を受けることとなってしまった。



高雄出航後、狭い場所を通過するサンプリンセス　華麗なダンスを披露してくれたカティア

７日目　台湾基隆入港
　入港時船首にて見学　40 年近く前、船乗時代に着岸した場所とたぶん同じ場所に着岸「なつかし～い」と思わずひとり言‥‥
7 時 45 分集合の故宮博物院･忠烈祠･中正記念堂を回るコースのツワーに参加するため、14 デッキホライゾンコートで早めの朝食をして出発の準備。
 期待していた故宮博物院であったが、人がいっぱいでゆっくりと見学している余裕が全くなく　ちょっとガッカリ！　　ここは個人で来て一日かけて見学したほうがいいと思う。
忠烈祠は、11 時の衛兵交代を観覧　しかし集合は 11 時 15 分　丁度いい場面であったが撮影を断念しバスへ戻る。　だが、戻っていない人が 2 名いる。10 分過ぎても戻ってこない（添乗員さんが探しにいく）
　「出発・出発」と大声で叫びたくなったが　グッと　こらえて我慢した。
撮影に夢中になってしまって時間を忘れてしまったとか‥‥　　撮影を断念して戻ってきた私は･･･　いい場面が撮れたのにと　ブツブツ
年とともに動作がスローになるので早めの集合を心がけようと　肝に銘じた私であった。
14 時前に帰船　奥さんは船へ　　私は、懐かしさのあまり　一人街中へ　昔歩いたと思われる道を 2 時間程散策したが、　昔の目標物はとうとう発見できなかった。
16 時頃帰船　今日はクルーズ最後の出航となるので、出航時の汽笛音をビデオに撮りたくて　またも船首へ　ずーっと撮影していたが汽笛が鳴らない（今回に限って鳴らさなかった）
ディナーを一人欠席して（奥さんはプリプリ）今か今かと長時間撮影しっぱなしにしていたのに汽笛が鳴らなかった･･･　　残念無念！　一人ホライゾンで夕食の食事をしていたら 2 日目にハンバーガーショップで知り合った M ご夫妻に遭遇し　一緒の食事とな

った。　夕食後、ボーカリストのショーを見てから、ビスタラウンジに移動し、またもやショータイム　引き続き　この場所で　カントリー＆ウエスタンナイト　といっても全く踊れないが･･･　だが先ほど夕食を共にしたＭ夫妻に「初心者は踊れないのが当たり前　何でもいんだヨ！」とお声がかかれば　遠慮がない私は、すかさず舞台でフィバーしてしまった。
明が暗くなりムード音楽に変わり　ペアでのダンスに　「一人なんでこれは無理だな！」舞台を去ろうとしていると　スタッフの女性が　おいでよと　手を差し伸べている　私かな～あ？　　と考える暇もなく
磁石のように吸い付けられてしまった。
　覚えたばかりのワルツで左回転のみ･･･
　いける！いける！　下手ながら自信に満ちたワルツであった。
　楽しかったイベントが終わり　のどが渇いてしまったので、14デッキのホライゾンへ水分補給に　Ｍ夫妻とお茶をして７日目の夜が終わった。０時を回っていて８日目の朝だ!!　でも、おやすみなさい！
＊お得な情報
　夜中の人の少ないホライゾンはゆっくりと過ごすことができるのと、船のスタッフが利用している時間帯であることが分った。
深夜見かけたスタッフ（本日の夜だけではありませんヨ！　と言う事は毎晩遅かったの？　イエッサー　毎晩恒例です）
・サンプリンセスダンサーの女性陣
・ショーですばらしい踊りを披露してくれたカティア
・私のダンスの特訓をしてくれた男性スタッフ
・イタリア人の三等航海士
（金筋一本の肩章をつけていたので、つたない英語でアーユー３rdオフィサーと聞いたら　返答してくれました。　イタリア人とのことで、　地中海で座礁し、船長が逃げてしまった話をしたら　そんなことはあってはならないと笑っておりました）

ショータイム「カントリージャム」

カントリーウェスタンナイトの一コマ

（次号に続く）

南極探検ツアー（その１）

会員　馬越　治

ピースボート世界一周クルーズで２０１２年１２月１４日に横浜出航後、東南アジア、インド洋、アフリカ南部、大西洋を経て翌２０１３年１月２６日に南米リオデジャネイロに到達する。

ブエノスアイレス、モンテビデオに寄港して、南米大陸の東海岸を南下し２月５日に世界最南端の町、アルゼンチンのウシュアイアに入港した。

ピースボート世界一周クルーズの中のオプショナルツアーとして参加した「南極探検ツアー」はこの港から出発する。

２月５日：ウシュアイアより耐氷船に乗り換えて南極へ出発

ウシュアイアの１日観光の後、夕刻ピースボート（オーシャンドリーム号）を離脱し、耐氷船に乗り換え、９日間の南極ツアーに出発する。

次にピースボートに合流するのは１０日後のチリのバルパライソだ。

耐氷船は約 3,000 トンでオーシャンドリーム(35,000 トン)の 10 分の 1 以下と小さく、全室二人部屋。参加者総勢７０名が割り当てられた部屋へ入る。

横浜出航以来のピースボートの旅仲間の見送りを受けてウシュアイア港を 18 時に出港。世界一荒れると云われるドレーク海峡を無事に越えられるか自信なく、揺れ始める夜半の前から酔止め薬を飲み始める。

ドレーク海峡はウシュアイアと南極半島先端の間の約 1000Km の海峡である。地形的にはアンデス山系と一体をなす由。南極大陸の周囲の広大な海域には時計回りの海流があって、ここドレーク海峡だけが狭く（1000Km もあるが）なっている。その上、地形的に浅くなっているので急に海流の速度が速くなる。それに伴う猛烈な西風の発生でこの海域は年中荒れるという。

２月６日、７日：ドレーク海峡

耐氷船は調査船を観光用に改造したものであるが、設計ミスで微妙に左に傾いており、右舷からの強風（西風）を受けてローリングの度に大きく左に傾く。そのあおりで女性が脚を 14 針も縫う裂傷を負う程の揺れであったが、これでも好天に恵まれたと云っていた。リオで離脱した先発グループでは波の高さが９ｍもあり骨折した人もあったそうだ。

ドレーク海峡航行中、船酔いのため食事も取れず、部屋に閉じ篭り切りで、船医の治療を受ける人も何人か居た。

まる２昼夜で南極半島の先端に近い南シェトランド諸島のネルソン海峡を通過。

南極半島沿海に入った途端、海はウソのように穏やかになる。

筆者は６時間毎の酔止め薬服用で、どうにか船酔いせずに乗り切った。但し、１月中旬にアフリカで引いた風邪をこじらせて、船医にもらった薬も飲み続けたので、すっ

かり胃を痛めてしまった。巨体の現地人用の薬で、強すぎたようだ。
７日の夕刻、遠くに巨大な氷山を見ながらネルソン海峡を通過し、そのまま半島沿いに夜通し南下を続ける。船が揺れないので久しぶりに良く眠る。

２月８日：午前、ハイドロガロックスと午後、ニコハーバーに上陸

夜明けには１番目の目的地、南極半島中ほどの西岸、ハイドロガロックスと云う島の沖合に達する。
この時期、気温は＋５℃～－５℃と云われており、スキーウエアを準備していた。
当日、気温は１℃。風による体感温度が分からないので下着を強化しオーバーズボンを着て出かける。足元は上陸時に海水に浸かるので、耐氷船でゴム長を借りる。
ゾディアックと云う上陸用のゴムボートに１０人程度乗ってハイドロガロックスへ上陸。すぐ脇には船より大きく、青く輝く氷山が漂う。
雪の舞う天候であったが風は無く寒くはない。雪山に登る等で結果的に大汗をかいてしまった。
ハイドロガロックスは、あごひげペンギン、南極オットセイ、ウェッデルアザラシ、ウ等が多数生息しており、それを狙う盗賊カモメ、その他大型の鳥類も見られた。
オットセイとアザラシの区別が付かなかったが、胸ビレを前足の様にして上体を立て、いざとなるとかなり早く走るのがオットセイ。ひと回り大きく(300Kg 以上はある)胸ビレが泳ぎに特化して小さく、雪上をイモ虫の様に体を波打たせて進むのがアザラシだ。
その他の生物、南極の歴史、国際条約などの事前のレクチャーを受けていたので、興味深く観察する。
第一印象として、南極は極寒の氷と風の無機的な世界だと思っていた。が、この季節、膨大なプランクトンとオキアミが発生し、途方もなく巨大な食物連鎖が成立している様を目の当たりにして驚く。多種の鳥類(ペンギンを含む)、オットセイ、アザラシ、数種のイルカとクジラ、それらを捕食するアザラシ、シャチ等、実に多様性に富み生命が溢れかえっている。
小さい島では営巣するペンギンの種類は島毎に異なるが、南極では、あごひげ、ジェンツー、皇帝、マカロニ等の７種類があり、それらが排泄する有機物は歴史的にも実に膨大で低い位置の雪は糞のピンク色と、これを養分とする藻類の緑色に染まっている。これ等の有機物が毎年、雪解け時期に海中に入り食物連鎖を起動させる。
また、オットセイやアザラシ、ペンギン等、南極の動物達の体型は実にユニークである。
地上での動きは全くぎこちない一方、水中では俊敏な身のこなしで捕食する。もっとも陸上では繁殖期は別として休息以外にする事は無く、全く合理的に水中の活動に適した進化を遂げている。

時々、どこかで氷河が崩落する、雷鳴の様な音が轟く。風が無ければ、ここは全くの

静寂の世界であり、この音に先ずビックリする。一度は見たい氷河の崩落の瞬間だが、この音が聞こえた時は既に手遅れなのだ。この島はサイズから言って氷河は無い。

ニコハーバー：南極半島中どころ西岸の深い入り江だ。風がないと海面は鏡となり、氷河と空を写し出す。全くの静寂の中、夢かと思う美しさだ。この時期、棚氷と氷河が流れだし、船は多数の氷山や流氷を分けて進む。周囲は青く輝く氷山、その間を飛ぶように進むペンギン、遠く近くに背中を見せるクジラやイルカ。
言葉を失う・・と云うのはこんな様か！
入り江の一角に上陸。南極半島とは言え、大陸に上陸した事になる。ここはジェンツーペンギンだ。この時期ヒナが居るが、死んだヒナをついばむ盗賊カモメもすぐ隣に居て、厳しい自然の掟を見せる。
ペンギン達の営巣地は雪解けと糞でドロドロの状態で、表情も寂しげに見える。しかし、周囲の小石を集めて巣を作る行動も見られ、個体により時期のズレはあるものの、活発な繁殖と子育ての時期である由。
数百ｍの雪山を登って大陸から流れ出る氷河を見る。巨大なクレバスが無数にあって、時折ピシッ、ピシッと云う音が聞こえる。海に張り出した氷河の先端が今にも崩落しそうなのだが！
偶然、氷河の中腹で雪崩が発生し(中腹で止まったが)、ビデオに捉えた。また、なぜかピシッ音で、“来るな”との予感からカメラを構えたその時、先端が数十ｍの高さで海に崩落し、これもビデオに捉える事ができた。
轟音と共に発生した津波が砕けた氷を近くの浜に押し上げる。氷河の近くの対岸にある島に営巣するペンギンの巣が、どれも高い位置にある理由がこれで頷ける。

上陸予定のポートロックロイへ移動する途中のジェルラシ海峡でシャチの数頭の群れを目撃する。体長１０ｍ超、背ビレの高さ２ｍにもなる巨体のゆったりとした泳ぎは王者の貫録だ。

（次回に続く）

日本を見直した台湾一周旅行

会員　　ふゆきわぎ

２月２２日（平成２５年）のお昼に成田国際空港をたち、夕刻台北の桃園国際空港に立つ。５日間の台湾格安バス一周旅行のスタートだ。

初日のレストランでの夕食は４つのターンテーブルを各８人で囲んでの台湾料理。同じテーブルの一人が手洗いに立ってしばらくしてから「イヤー、参った、参った」といいながら戻ってくる。「閉じ込められちゃったよ。何度も回して押して引いたけどドアが開かない。おーいと叫んでも誰もいない。ドアの上が空間だったので、よじ登ってやっと脱出できた」格安だけあって先が思いやられる。

２日目は台中・台南観光だ。

台中では３０，１ｍの巨大な金色に輝く弥勒菩薩が祀られている１９２８年建立の仏教寺院宝覚寺を訪れる。この大仏は柔和な笑顔の７福神布袋さんで、耳に触ると幸福が訪れ、へそに触るとへそくりが増え金持ちになるといわれている。

大仏の横には人身大の弥勒菩薩が置かれていて人が群がっている。旅仲間の女性たちに交じって妻もわれ先にとおへそに手を伸ばす。お寺もいきな計らいをするものだ。また敷地内には戦前に亡くなった日本人の１４０００柱の墓地のほか、日本から送られた奈良法隆寺の仏像や友愛永遠の鐘、７重の塔などもあり日本との関係の深さに驚く。寺院は日本人観光客ばかりで、日本語が行き交い、２０人ぐらいのお年寄りが日本童謡鎮魂歌を静かに捧げていた。

宝覚寺の弥勒菩薩

日月潭はもともと大きな天然湖で、湖の北側が太陽（日）の形、南側が月の形をしていることからこのように呼ばれ、ロマンチックな感じを受けるがどこから見ればそう見える

のだろうか。水力発電所の建設計画が日本統治時代（１９１８年）にたてられ、１５年後にダムと発電所が竣工し、現在台湾水力発電量の半分以上を賄っている。日本の貢献をここでも知ることができた。

文武廟は日月潭の湖畔北部にあり、中国宮殿様式の台湾最大級廟であり、きらびやかで観光の名所ともなっている。廟は前殿、中殿、後殿の三殿様式になっており、前殿は文廟で文の神である孔子が、中殿は武廟で武の神である関羽・岳飛が祀られている。廟門から前殿に上がる階段の両側に赤い色をした一対の獅子の石造、前殿と中殿との間に九頭の龍の彫刻がある

文武廟と日月タン

文武廟

ガイドさんは「ここの孔子廟は偽物。本物は世界で一つ。日本所沢ユネスコ付近の孔子廟である」とのコメントがあった。また「龍の彫刻の足の指の数は位によってきまっている。皇帝は五本、皇族は四本、平民は三本でちなみに日本の龍はすべて三本」との説明があり、確認したら確かに五本あった。またさらに「日本の漆を英語でどういいますか。JAPAN です。蒔絵と同様日本の誇る工芸品です。皆さん自慢してください」こういう話も楽しい。

台南は１７世紀にオランダ人が築城し、その後に改築された「赤嵌楼（せきかんろう）」などの古跡や、赤れんがの古い建物がいたるところに残り、古都の名にふさわしい街並みとともに現代的な都市景観と併存していることから、台湾の京都と呼ばれることがある。

この地で日本統治時代（１８９５～１９４５）に烏山頭（うさんとう）ダムを築き、不毛の地を穀倉地帯に変えた日本人技師、八田與一（はったよいち）に今も尊敬の念が寄せられている。彼の名前と実績を初めて知ったのはこの観光バスの中であった。ガイドさんが「今でも尊敬されている日本人がいます。政治家ではありません。技術屋さんです。小学校の教科書にも載っていて偉業をたたえています」と紹介した。

車窓から眺めるフルーツ畑はスイカ、パイナップル、ブドウなど何種類もの果実が年数回とれるそうだ。道端の掘立小屋で購入した果物のいろいろな甘い香りがバスの中で充満し、八田氏に台湾人のみならずわたくしたちも感謝しながら味わった。悲しい話もあった。

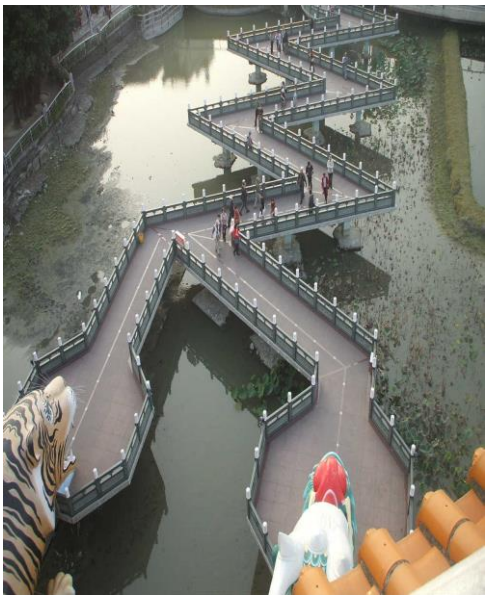
彼は４２年、フィリピンへ向かうために乗った船が米軍潜水艦に撃沈され死亡し、妻は３年後にダム旧送水口に身を投げたそうだ。

赤カン楼

果物屋

３日目は高雄観光だ。

蓮の花で有名な淡水湖の蓮池潭と龍虎塔が見どころだ。ガイドさんの説明では「台湾の人は十二支の中で龍が最も良い動物で、虎が最も悪い動物と信じています。龍の大きな口から入って虎の大口から出ると今までの悪行が取り消ししてくれ善人になれるといわれているのが龍虎塔です」台湾人になったつもりで禊をしてきたので、今は善人そのものになったはず。



蓮池タン

龍虎塔

４日目は花蓮、九ふん、台北観光だ。

本ツアーで私がもっとも期待する太魯閣渓谷観光だ。ガイドさんの説明「台湾の中央部

は山脈が走っていて、東西の交通の便は良くない。人力で東西に通じる道を造ることになった。今でも素掘りのトンネルが残っている。ダイナマイトを爆発させながら作業していたところ、大理石や宝石が発見されました」

渓谷は１０００ｍの山々が重なり、その隙間を水が流れている。雄大で美しい山河の風景が広がる景勝地。歳月を経て変化を続ける険しい大理石の谷壁・断崖は迫力満点とその間を優美な曲線を描きながら流れる渓流が静寂と躍動のハーモニーとなって壮大なパノラマを展開する風景。高さ６００ｍ幅１２００ｍの絶壁が続く大断崖では岩壁を下から見上げると断崖に囲まれた空の隙間が台湾本島の形に見えたり、アメリカ先住民の鼻の高い横顔のように見える岩があったり、ごつごつの岩肌がむき出しの手掘りのトンネルが残っていたり、急流や地下水などで大理石の岩肌に無数の小さな穴が開いており昔はツバメが飛び交いその穴に巣を作っていたとか、まさに蟹の横這いの幅３０㎝ぐらいの細い道が岩壁に造られていたり、青く透き通った渓流が時には白い波を立てているなど見るところも多い。

３０００ｍ級の山々が連なる中央山脈を源とする渓流が浸食を繰り返し、何万年もの時を経て造った自然美だ。中央山脈の東西の花蓮と台中を結ぶ全長１９４ｋｍの道は３年９か月、連日約 6000 人が作業を続け２１２名の御霊の元 1960 年完成した

９ふんは昔この地に 9 世帯しか住んでいなかった。交通も不便でいつも 9 世帯分をまとめ調達していたことから同じ発音の９ふん（チョウフン）が使われるようになったらしい。

１８９０年に金鉱が発見され、ゴールドラッシュに沸き小香港といわれるほど栄え、日本統治時代に藤田組により最盛期を迎えた。街並みは、日本統治時代の面影を色濃くとどめており、当時の酒家（料理店）などの建物が多数残されている。金鉱が尽きるとともに衰退したが、１８８９年公開の映画「非情城市」がベネチェア映画祭でグランプリを獲得するとともに映画の舞台となった９ふんが再度脚光を浴びた。

大魯閣渓谷

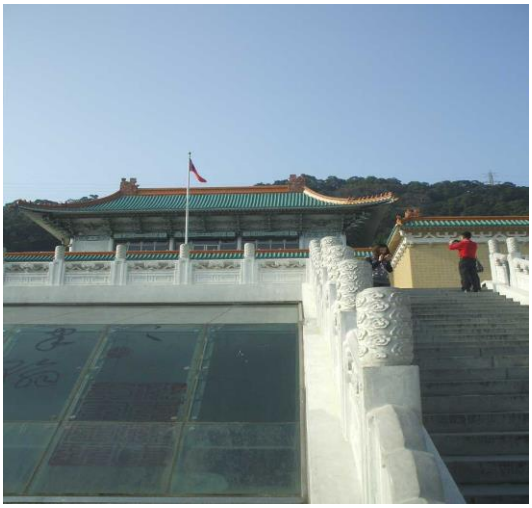
九フン

街並みは狭い道路と坂道と急な石階段、連なっている屋根瓦、風になびく軒下の真っ赤な提灯列が古き良き時代を彷彿とさせる。上映時間外は自由に館内見学できるに映画館、竹細工家具に囲まれて情緒いっぱいの茶芸館、湾岸線の美しい基隆湾が一望できるビューポイント、お土産や惣菜を店頭一杯に並べているお店など散策するだけでも楽しいが、足が棒のよう。二人の記念写真も疲れ顔。

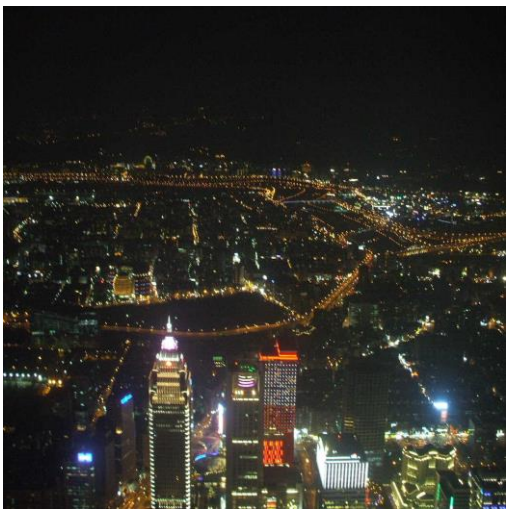
台湾観光の目玉は国立故宮博物館だ。もともと北京の紫禁城所蔵の文物が戦火を逃れて台北に運び込まれたのだ。収蔵品は約６５万点でそのうち約２万点を常設展示しているが、短時間の見学ではとてもとても見られない。ガイドさん「至宝の一部は皆さんと一緒に見て回り、随時イヤホンで説明します。あとはフリーとします」

人気の至宝はまず「翠玉白菜」だ。半翠半白の色合いと滑らかなつやを利用しての白菜（清廉潔白の象徴）とキリギリス（子孫繁栄の象徴）を巧みに彫り上げている。高さ約１９ｃｍ、幅約９ｃｍと意外と小さい。その次は肉形石の角煮だ。色艶、表面の毛穴、脂身の質感などが豚の角煮にそっくり。高さ約６ｃｍ、幅約７ｃｍ。そのほか象牙の精細な彫刻の一つ一つにはよくここまでできるなと感心する。中でも１７層の円球が重なってできており、しかもその一つ一つが回転する象牙の彫刻は１２０年の歳月をかけて作られたそうだ。ただただ驚くばかり。約１０年前に見学に来ていたがすっかり忘れていて、改めて感動の世界に浸った。

故宮の外観写真と撮ろうとガイドさんに集合場所・時間を確認し、戻ってきたら誰もいない。びっくり仰天。インフォメーションに行ったり、故宮の出入り口あたりでうろうろしていたりどうしようかと考えていた時にガイドさんとばったり。返却されたイヤホンの数で全員集合と早合点してしまったようだ。このハプニングは心臓に悪い。（自己防衛上これからはガイドさんの携帯番号を聞いておくことにしよう）



故宮博物館



TAIPEI１０１から見た夜景

台北の夜の顔はＴＡＩＰＥＩ１０１展望台で見下ろす。高さ５０８ｍのランドマークタワーから３６０度の台北は夜のネオンに照らし出された縦横に走る道路、立ち並ぶ高層ビルなどで活気のある街となっている。エレベータの待ち時間の時、タワーのカメラマンがとってくれた記念写真が館内テレビで放映されていた。購入の仕方まで説明していて、商魂の逞しさを感じた。また帰る時は、ＶＩＰ用の特別エレに乗せてもらい待ち時間はほとんどなかった。実は貨物用。

五日目は台北観光と帰国だ。

へそくりの弥勒菩薩からスタートした今回の旅行も最後は商売の神様・関羽を主神とする行天空で閉めることとなった。

商売繁盛を願う人・人・人で立錐の余地もないほどの混みよう。ボランテアの人から線香をもらい、神様に識別してもらうため自分の名前・住所を告げてお祈りする。信者の人ごみともうもうと立ち上る線香の煙と山のようになったお供え物と青い服を着た大勢のボランテアの人と、そこらの廟とは規模が違う。圧倒された思いで、廟を出るとそこは有名な占い横丁で日本語ＯＫの看板もある。日本人にも人気があるようだ。
楽しかった台湾を後にして一路成田に。

行天宮

占い横丁

日本統治に対し台湾人の反応はいろいろな機関のアンケート調査の結果ではいずれも良好で概ね６０％以上の人が親日的のようだ。今回は現地人との接触は特にはなかったが、嫌な気分になることもなく、ハプニングはあったものの楽しく旅行できた。

２０１３年４月１６日

混迷のトルコ

会員　大野康昭

始めに、

今回、家内が新聞を見て「きらめきトルコ旅行」と銘打ったツアーに行きたいと言い出した。いままでは、年齢を考えて長時間のフライトを要する地域には無理だと言っていたがトルコ国内の移動には主に飛行機を利用、イスタンブールとカッパドキアには連泊、費用の安さ等を考えて、行きたくなったらしい。私もトルコには行ったことがないし、行って見たいと思っていたので、即同意しました。

ところが、カッパドキアの気球事故、旅行代金支払い後、トルコ国内の反政府デモの勃発と、思わぬ問題が起こってきた。どうしたものかと戸惑いましたが、私も今年の２月で古希を迎えた。残された年月も、いつ突然終止符を打ってもおかしくない年齢になった。

「ＧＯ」の決断を下しました。今回のトルコツアー旅行は６月４日から６月１２日の８日間の日程でした。旅行社からの連絡では、「デモは観光に影響を及ぼすほど重大な影響はありません。既に１０日前にトルコに出発したツアーも予定通り進んでいます。」とのことでした。　気球によるカッパドキアでの飛行は、オプションで入っていましたが、エジプト、トルコと、連続して事故が起きているので、今回の旅行では中止しますとの連絡が出発直前に書面で送られてきた。しかし、出発前日の添乗員さんの話では、どうしても気球に乗りたければ、（旅行会社は責任は負わないが）カッパドキアの気球運営会社に直接、乗船料を払えば乗る事が出来るとのことでした。今回のトルコ旅行の大まかな行程は、トルコ航空直行便でイスタンブールに入ります。翌日、イスタンブール市内観光、３日目、飛行機でイズミールまで、古代都市エフェソスを見学後パムッカレまでバスで移動、パムッカレで一泊、石灰棚散策、バスでパムッカレからコンヤまで（約４３０キロ、所要時間　６時間）、コンヤでメブラーナ博物館見学、その後再度バスでカッパドキアまで移動（約２２０キロ）、カッパドキアで洞窟レストランで二泊、６日目カッパドキアから空路で再びイスタンブール、グランバザール見学の後、ボスボラス海峡クルージング、７日目、イスタンブール市内観光、アタチュルク空港から成田に、８日目朝、成田着。

今回の旅行は初めから思わぬハップニングに遭遇しましたので、長距離のバス移動の中で聞いた、現地ガイドのオカンさん（日本の埼玉県深谷市に住んでいたことがある方で日本語が堪能）から聞いたトルコ文化、歴史を含めたトルコ事情を基に、少し切り口を変えて書いてみたいと思います。

近代トルコの基礎

オスマントルコ帝国の後、現代のトルコも含む近代トルコを創ったのは取るこの英雄であ

るケマル・アタチュルクである。イスタンブールにある国際空港の名前はアタチュルク国際空港である。イスタンブールの公園に立っている銅像もトルコ共和国初代大統領、アタチュルク大統領である。トルコ語のアラビア語の表記をアルファベットに変えた。政教分離を確立した。トルコの首都をイスタンブールからアンカラに移した。もともとはオスマン帝国軍の将軍であり、数々の戦跡を残し、トルコのヒーローとなり、第一次大戦の後オスマントルコの王族ファミリーを国外に追放した。女性の参政権を確立、ギリシャのイスラム教徒とトルコのキリスト教徒を交換条約によりお互いの国に移動させた。アジアで初めて近代化を成し遂げた日本への関心が高く、トルコ共和国の近代化に、民族資本の導入、国立銀行の設置、法制面の整備等、日本の明治維新を手本にしたと聞く。

イスタンブールオリンピック

２０２０年の夏季オリンピック候補地にイスタンブールと東京が立候補して争っているのも不思議なめぐり合わせである。猪瀬都知事のイスラム差別発言により国際的にも大きな非難を浴び、その後トルコへの謝罪などがあったが、一時は、東京開催は無理ではないか、とさえ言われた。ところが、その後の反政府デモなどでトルコでの開催も危惧された。幸い、その後のＩＯＣの中間報告では、これらの事は問題視されていない。マドリッドも含めてまだ、どこが有利かは、白紙の状態ではないのか。

イスタンブール市内をバスで観光して驚いたのは、交通渋滞の凄さである。特に通勤時間帯でアジア側～ヨーロッパ側間の道路は、特にひどい。見たところ、地下鉄や通勤電車は、余り見かけない。これでは、なかなかオリンピック開催は大変なのではないかと思っていたら、今年の１０月にはアジア側～ヨーロッパ側地域の海底トンネルが完成予定だそうだ。工事は、大成建設が請け負っているそうである。戦後の日本の発展も東京オリンピックが契機となっている。イスラムの優等生と言われるトルコも、オリンピック開催は長年の夢であろうし、イスラム圏での最初のオリンピック開催の動機付けは、東京が掲げる３・１１震災後の日本の復興よりも強力に見える。９月ＩＯＣの最終決定が待たれるところである。

ボスボラス海峡クルージングで見たヨーロッパ側対岸の眺め

反政府デモ

そもそも今回のデモは、タクシム広場前のゲジ公園の再開発を政府が発表したので発端である。タクシム広場は、もともと憲法で定められている「政教分離」の聖地であるのに、そこに、緑豊かな公園を壊してショッピングモールを建設すると政府が発表したのである。これに反対するデモ隊が公園に集まりだし、日に日に数を増加して行ったのである。デモ隊の多くは、「Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ　Ｈｅｒａｌｄ　Ｔｒｉｂｕｎｅ」、によれば多くは自由意志論者と言われる１８歳～３０歳の若者であるという。経済の好調に自信を得てエルドアン政権が強権的な政治を進めてきたのも、大きなデモの理由のようである。今回のデモは、トルコ経済に大きな影響を与えており、株式の下落、トルコリラの下落、観光への打撃等で、一般の人々は暴動の後の静けさを求めているようだ。しかしなかなか、収束はみられず、警察とデモ隊の対峙は長期化を見せている。にも拘わらず、政府の支持者は、反対意見の噴出はむしろ民主主義の健全な証しであると歓迎していると言う。この辺は、エジプトの政変やブラジルの暴動とは、一線を画しているように見える。

今回の旅行では、最終日がイスタンブールでの自由行動となっており、私達夫婦もタクシン広場近くのドルマバブチェ宮殿（スルタンの城として有名）を見学しようと思っていたが、旅行社から危険だから行かないでくれとの依頼があった。その代わり、参加者全員でバスでエジプシャンバザールを見学する事になった。我々の泊まっているホテルは、タクシン広場近くの高台の米国系のホテルで、最終日の朝は、１３階の部屋だったが窓の下には広場に通ずる道には車が通れないようにバリケードが張られ、機動隊員の隊列が坂を上っていくのが見えた。ＣＮＮのテレビ放送は、其の模様を実況中継していた。

アヤソフィア寺院

エジプシャンバザール

気球に乗ってみて

エジプトでの気球事故は日本人の死亡者がでたからか、其の記事は大きく扱われたが、カッパドキアの気球事故も一人の死亡者、数十人の怪我人がでたにもかかわらず、日本ではあまり大きくは扱われなかった。

カッパドキアの熱気球は、以前会社ＯＢの友人からトルコにいくなら是非、気球に乗ることを勧められていたので、旅行社に申し込み、旅行社からは全て自己責任で気球乗船に参加する旨の誓約書と、ツアー旅行からの一時離脱をする同意書を提出させられた。我々のグールプからは、２組みの参加者があった。バルーン会社に支払った料金は、一人２３０ドルであった。

気球の方向は風任せであるので、風の安定している早朝が選ばれる。朝５時にホテルのロビーから小型バスに乗って、バルーンの出発拠点に行く。そこで受付を済ませ、コーヒーやケーキが準備されている。やがてホテルの名前が呼ばれ、同じホテルに泊まっている人達と熱風を吹き込まれているバルーンの前で待機する。気球は離陸よりも、着陸の方が危険とのことだ。着陸の際の、姿勢やその他の注意事項が英語で説明される。一つの気球の籠には、約２０人が定員である。かなり大きなものだ。やがてバルーンは熱風で膨れ上がり、乗船者が乗り込む。パイロット一人と補助員がニ三人予め乗っている。気球の高度は２００メートルから３００メートル位まで上がる。　朝焼けのカッパドキアの上空は美しい。奇岩を空から俯瞰する。既に１００機近いバルーンが空中に浮かんでいる。高度を下げたり，上げたりで、約１持間の空中散歩である。降りるときは、予め無線で方向を確認してバルーンが着地する場所近くに小型トラックを待たせてある。トラックの荷台に籠を収めるように着地できれば成功だ。それがかなわない場合は、近くの草原に降りることになる。トラックの荷台の場合は、地上の要員がすぐにロープでバルーンを固定して、乗客を降ろさせる。草原の場合は、籠がなかなか安定せず、全員の下船までにはかなりの時間を要する事になる。しかし、気球は気候さえ安定していれば、かなり安全な乗り物であるといえる。
着陸後はパイロットさんたちと無事を祝って、シャンペンで乾杯だ。パイロットになるには、ライセンセンス取得までにはかなり訓練の長期期間を必要とされるとのことだ。朝の７時半までには、無事ホテルに到着した。

空から見たカッパドキア

別の気球の観光客

トルコの魅力

００７の「ロシアより愛をこめて」の舞台はイスタンブールの地下宮殿が舞台となっている。この地下宮殿は５世紀ごろの東ローマ帝国の地下貯水池であったそうな。なんと言っても、地理的要因、東西文化の十字路と言われるアジア側とヨーロッパ側の二つの地域を有するかつてのビザンチン帝国時代の首都、イスタンブール、人口も１２００万人でほぼ東京に匹敵する。其の中に点在するイスラムの寺院、オスマントルコ時代のトプカプ宮殿、人種の坩堝のようなグランバザール、オリエント急行の出発駅もある。アガサクリスティの「オリエント急行殺人事件」は１９３４年の作だ。ベートーベンもモーツアルトもトルコ軍楽隊の音楽に見せられ、トルコ行進曲を創っている。オスマントルコの二度のウィーン包囲による影響で１８世紀の西洋ではトルコ趣味で沸きかえっていたという。またアジア側に位置する広大な大地もトルコを形成する魅力の一つだ。そのなかに、古代都市エフェソス、石灰棚のパムッカレ、奇岩カッパドキア等の自然の魅力が存在する。まあ、しかしなんと言っても我々日本人には、其の親日度が高いのも大きなの魅力の一つであろう。

エフェソスの遺跡

５月ＬＳＣイベント　　東京散歩
六義園散策と荒牧信允氏のとげ抜き地蔵ライブ鑑賞

去る５月７日（木）にＬＳＣ活動計画の東京散歩が、ライブ鑑賞との関係で少し予定より前倒しで行われました。

午前の部　六義園（りくぎえん）

午前１０時：００駒込駅集合で、石井時子さん、桂惇さんご夫婦、田中靖人さん三浦昭子さん、今回幹事役の大野康昭の５人が、集合、予定に入っていた森川浩司さんは、姿が見えないので奥様に電話すると、行ってる筈ですとのこと、取り敢えず時間も過ぎていたので、この５人で六義園正門から入園料２００円を払って入園、森川さんは、既に入園して散策中であったので、入り口付近で合流。

『六義園は造園当時から小石川後楽園とともに江戸の二大庭園に数えられておりました。元禄８年(1695 年)、五代将軍・徳川綱吉より下屋敷として与えられた駒込の地に、柳沢吉保自ら設計、指揮し、平坦な武蔵野の一隅に池を掘り、山を築き、7 年の歳月をかけて「回遊式築山泉水庭園」を造り上げました。

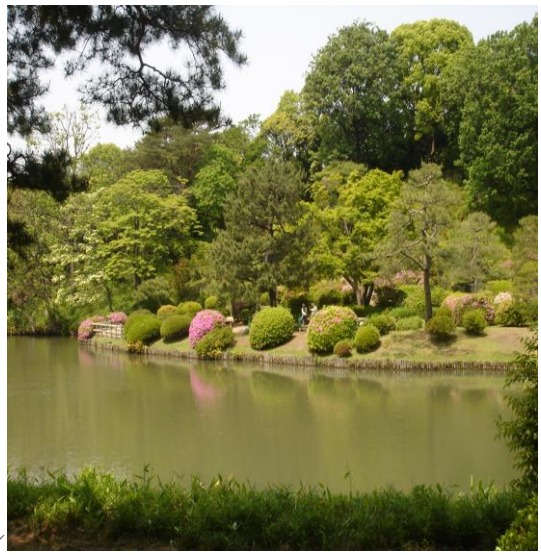
　六義園は吉保の文学的造詣の深さを反映した繊細で温和な日本庭園です。

庭園の名称は、中国の古い漢詩集である「毛詩」の「詩の六義」、すなわち風・賦・比・興・雅・頌という分類法を、紀貫之が転用した和歌の「六体」に由来します。』

（東京公園協会ホームページによる）

都心部に在っても、公園内部は静寂そのもの、うっそうとした木立の森の中を歩いて新緑の独特の濃い匂い中を森林浴、残念ながら花は丁度ツツジも終わり、サツキとの端境期で見ごろの花は咲いていませんでしたが、たっぷり２時間散策して、公園近くのイタリアレストランで昼食をとりました。

記念撮影



美しい庭園内部

午後の部
昼食後、駒込から徒歩で巣鴨まで移動。桂さんの奥さんは、以前このあたりの大手銀行の駒込支店に勤めていたので懐かしいとのこと。ＪＲ山手線の線路に沿って歩くと、大きなお屋敷が並んでいる。表札からすると大名屋敷の跡地に相違ない。やがて巣鴨駅に到着、それから地蔵通りに入る。この通りは老人向けの商品が山積みされている商店が軒を並べていて、眺めていても飽きない。「うまそうな大福だな、帰りに買っていこう」、高岩寺の入り口が見えてきた。ここで、秋本さんと合流。秋本さんは、午前中仕事だったそうで、その後駆けつけてくれました。ご苦労様です。荒牧さんのライブはまだ,始まっていない。そのまえに、とげ抜き地蔵のお不動さんに水を掛けて、悪いところを直してもらおう。ＮＨＫのテレビの取材なのか、「試してガッテン」の幟を立てている。白衣を着た人が、参拝客のあごの辺りを触っている。まあ、其の内テレビで放送されるのだろう。そうこうしていると、荒牧さんのライブが始まった。懐かしい叙情歌のスタンダードナンバーを観客と供に歌いだした。我々は暑いので、木陰に座って曲を口ずさむ。１時間半位経過し、最期に復興ソング「花は咲く」を皆で熱唱！ご苦労様でした。
ライブ鑑賞の後は、地蔵どおりの商店街でお土産の買い物。それから、駅前の喫茶店に入ってコーヒを呑んで一休み。　皆さん、少しお疲れかな。午後４時、解散です。楽しい一日でした。（大野記）

お地蔵さんを擦る参拝客

熱唱の荒牧信允さん

２０１３年５月ＬＳＣ座談会

日時　　２５年５月２１日・火・１３時３０分から１６時まで
場所　　さいたま市市民サポートセンター（浦和パルコ９階）
講師　　馬越治氏
テーマ　世界一周クルーズ（その１、南極クルーズ）
参加者　塚本茂理事長、馬越治理事、林裕子理事、桂惇氏、三浦昭子氏、田中和義≪記録）

１　概要

ピースボート第７８回世界一周クルーズ南半球にお一人参加。２４年１２月１４日から２５年３月２５日までの１０２日間。費用は約４００万円、９４０人乗船・６０歳以上は７４０人・レピーターは４３０人でうち４０名が前回参加した７１回クルーズの仲間。

２　日程（寄港地・日時）

１２月１４日横浜―基降（台湾）－コタキナバル（マレーシャ）－シンガポールージャカルタ（インドネシア）－２５年１月５日ポートルイス（モーリシャス）ーダーバン・ケープターン（南アフリカ）－ウォルビスベイ（ナミビア）―リオデジャネイロ（ブラジル）－ブエノスアイレス（アルゼンチン）－モンテビデオ（ウルグアイ）－２月５日ウシュアイア（アルゼンチン）－バルパライソ（チリ）－カヤオ（ペルー）－イースタ（チリ）－３月９日パペーテ（タヒチ）－３月２５日横浜

３　南極クルーズ

オーシャンドリーム（３５千トン）をウシュアイアで砕氷船に乗り換え、２月５日から１４日までの南極クルーズに７０名参加。船が木の葉のように揺れるドレーク海峡で試練を受けた後南極半島に到着。

極寒の氷と風の無機質な世界だと思っていたが、２月という夏のこの時期は膨大なプランクトンとオキアミが発生し、巨大な植物連鎖が成立していることを目のあたりにした。多種の鳥類（ペンギンを含む)、オットセイ、アザラシ、数種のイルカとクジラ、それらを捕食するアザラシ、シャチ等、実に多様性に富み、生命が溢れかかっている。
天候に恵まれ、夏の南極は限りなく美しく、興味は尽きなかった。

４　参加者の感想

ビデオを適切に編集した美しい画面に魅入られ、バックグランドミュージックも画面の臨場感を盛り上げ、字幕のナレーションも詩的に簡潔になされていて、まるでドキュメント映画を見ているようだった。海上を漂う流氷は青白く透けて見えるようですごく印象的だった。

２０１３年7月ＬＳＣ座談会

日時　　２５年7月１６日・火・１３時３０分から１５時３０分まで
場所　　さいたま市市民サポートセンター（浦和パルコ９階）
講師　　馬越治氏
テーマ　世界一周クルーズ（Ｖｏｌ，１　横浜～ダーバン））
参加者　塚本茂理事長、馬越治理事、林裕子理事、大野康昭理事、岩崎任男氏、桂惇ご夫妻、小林允子氏、中井川久男氏、峯尾健一氏、宮下弘氏、田中和義≪記録）

１　日程（寄港地・日時）

１２月１４日横浜―１２月１８日基降（台湾）－１２月２２日コタキナバル（マレーシャ）－１２月２５日シンガポールー１２月２７日ジャカルタ（インドネシア）－２５年1月５日ポートルイス（モーリシャス）ー1月１０日ダーバン（南アフリカ）

２　航海状況

＊基降：：台北の宮殿建築・圓山大飯店付近の散策、台北１０１など。
＊コタキナバル：：世界遺産キナバル公園散策・熱帯雨林の動植物・フルーツ
＊シンガポール：：マイライオン、近代的な都市。OT 出発。
＊＊OT＊＊インドネシア・ジョグジャカルタで世界遺産の仏教のボロブドゥール遺跡とヒンドゥー教のプランバナン寺院群を観光。地震の爪痕が残る。
＊ジャガルタ：：イスラム教徒９０％、合流
＊＊洋上紅白歌合戦＊＊予選を勝ち抜いた選手の熱戦が繰り広げられた
＊ポートルイス：：一面のサトウキビ畑、美しいビーチ
＊＊洋上ファッションショー＊＊寄港地で入手したアジア、アフリカ衣装お披露目会
＊ターバン：：先住民ズール族との交流（ダンス・儀式など）、野生動物保護区での出会い（象、ライオン、いろいろな鳥、サイ、カバなどジープでの観察）

３　自己紹介

塚本理事長（船旅多数経験、８月よりフィリッピン３か月ステイ予定）、馬越理事（一人旅大好き。クルーズ中心）、林理事（８月マレーシア３週間ステイ予定、オーストラリア行きたい）大野理事（マレーシアやトルコツアーに参加、良かった）岩崎氏（短期間のパックツーアに参加。ハーモニカ講師が多忙）桂ご夫妻（ハンガリーやＮＺなど世界４０か国訪問、これからは近場中心）小林さん（クルーズの話を聞きたい）中井川氏（クルーズ大好き、昨年は３回、ＨＩＳクルーズ参加予定）峯尾氏（ＬＳ今後したい。妻の仕事で長期休暇不可。東南アジア年数回ツアー参加）宮下氏≪トルコ５年ステイ。ロングステイに向いている）田中（世界一周クルーズ南回り、ＮＺ１か月ステイ、これからはクルーズ）

４　次回

９月１７日・火・１３時３０分より・浦和パルコ・馬越治氏・世界一周クルーズ

海外ロングステイ　川口スクール　開催さる

２０１３年　４月２８日（金）午後1:３０分より下記の内容でＬＳＣスクールが開催され、参加人数は 約２０名でした。

場所　：　川口市民パートナーステーション　ＪＲ川口駅東口すぐ隣キュポ・ラ　４階第一会会議室

講師　：　NPOロングステイ会員　（小池佑典氏、吉原紘昭氏）

演題　：　①“今一番人気の“マレーシア”

②旅のテクニック　“かしこい航空券の買い方＆バス料金並みのＬＣＣ

本スクールを通して新たな会員の加入がありました。

海外ロングステイ　所沢スクール開催

２０１３年６月２２日（土）、午後１：３０より約２時間に亘り、所沢市市民文化センター、ミューズにてＬＳＣスクールが開催されました。参加者は約１５名でした。

講師：ロングステイ会員（林裕子氏、桂惇氏、吉原紘昭氏）

演題（１）マレーシア下見ツアー

（２）ニュージーランドの旅

（３）東南アジア、ロングステイ経費の比較等

ＬＳＣ川口スクール

ＬＳＣ所沢スクール

【編集後記】

７月の特別イベント開催さる

ＬＳＣ　ＨＰ担当理事　秋本佳之氏企画の特別イベントが下記のごとく開催されました。

開催日時：2013 年 7 月 9 日（火曜）　18：00 会場　18：30 開始～20：30 終了

会場：川口市立映像・情報メディアセンター　メディアセブン　・プレゼンテーションスタジオ

住所：〒332-0015　埼玉県川口市川口 1-1-1 キュポ・ラ 7 階

1.電力革命をめざす不屈の人永田敏　氏による講演「世界に光と情報を」　講演時間 60 分

参考資料　→　http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD070IF_Y1A600C1000000/

２.「南極探検ツアー」・・・映像で語る「地球環境とは・・・」　上映時間 45 分

LSC 理事　馬越治氏編集のビデオ

以上　2 本立てのイベントでした。

今回のイベント開催にあたり川口市地球高温化防止活動推進センター（指定　認定 NPO 法人川口市民環境会議）のご協力を頂きました。

注：榎宏氏の「佐渡歴史紀行（その３）」は、ページ数との関連で次号に掲載いたします。

『編集後記』

本号では、クルージングの旅が二編掲載されております。クルージングの旅は、旅行愛好者の間で大変な人気だそうです。クルージングといっても船の大きさ、航路、日程、出発地、費用等によって多種多様です。来年はＬＳＣスクールでもクルージングを取り上げようかと思っています。会員の皆様、酷暑が続いています。体調管理に気をつけてください。

２０１３年　夏季号ＶＯＬ.８５
発行日　２０１３年　７月３０日
発行人　　塚本茂
編集・校正　大野康昭
その他編集員

☆ロングステイクラブの概要と入会について☆

＜目的＞

ロングステイクラブは、快適な生活環境を求めて海外および国内で長期滞在を希望する方々を対象とし、その日常生活に必要な各種情報の提供や体験セミナーなどを通じて現地での「不安」「疑問」から解放して、生きがいのある滞在ができるように支援し、広く公益に貢献することを目的とします。

＜主旨＞

1. 自分の収入に応じて(主に年金等の範囲内で)
2. 自分の力で(体力経験等に応じて)
3. 自分なりの方法で(単独・家族・友人等で)
4. 自分なりの生きがいを求めて(国際交流・語学研修・ボランティア・スポーツ等)
5. 海外で生活体験をする(ツアーでも移住でもなく)

そのための情報交換・友人作り・高齢化社会におけるシルバー世代の余暇活用を生き方の選択肢とし活動します。

＜主要活動＞

1. 月例会の開催(海外体験報告・海外滞在計画の発表・情報交換)
2. 地域別交流会の開催(東京・千葉・神奈川・埼玉・関西・九州)
3. 同好会活動(海外各国別の同好会・各趣味の同好会等)
4. 会員相互の自主企画による海外グループ旅行の推進
5. 国際交流活動(各国友好協会・ボランティア・語学研修・ホームステイ)
6. 会報「ロングステイクラブ」の発行

＜留意事項＞

1. 当会及びリーダー(名称の如何を問わず)は、会員が企画海外旅行・滞在・同好会の諸行事等において一切責任を負いません。参加者は一切責任が自己に帰することを承知の上で参加下さい。
2. 当会は、非営利の団体です。会員は当会の諸活動(例会・会報・会員名簿等)を営利目的に利用することを禁止されています。

＜入会＞

当クラブの主旨に賛同される方は、年齢・性別・国籍に関係なく、どなたでも歓迎します。

年会費

- **4000 円（1 月から 12 月）を下記口座にお振り込み下さい。**

お振込先口座

- **銀行口座**

  りそな銀行東京中央支店普通 5807817

  ロングステイクラブ

  郵便振替

  00120-2-166202 ロングステイクラブ

NPO ロングステイクラブ事務局

〒337-0017

埼玉県さいたま市見沼区風渡野 470

電話/FAX 受付:048-685-2470

E-mail : info@longstayclub.jp

特定非営利活動法人「NPOロングステイクラブ」の目的

この法人は、快適な生活環境を求めて海外及び国内での長期滞在を希望する人々を対象とし、その日常生活に必用な各種情報の提供や体験セミナーを通じて現地での「不安」「疑問」から開放して、生きがいのある滞在が出来るよう支援し、広く公益に貢献することを目的とする。(法人の定款第3条)

「ロングステイクラブ」は、登録商標です。

（登録第４５４６８１１号）

long stay club